

令和4年度（第12期）

事業報告書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会

# 事業実施状況

## 第1 社会福祉事業

### 1 法人本部事業

本協会の運営に当たって、県福祉センター会議室等において、次のとおり会議を開催し、事業の適切な執行に当たった。

#### (1) 理事会

第73回理事会	4月15日
第74回理事会	6月10日
第75回理事会	6月26日
第76回理事会	7月29日
第77回理事会	9月16日
第78回理事会	12月16日
第79回理事会	1月13日
第80回理事会	2月24日
第81回理事会	3月10日
第82回理事会	3月30日

#### (2) 評議員会

第24回定時評議員会	6月26日
------------	-------

#### (3) 監査会

決算監査会	5月20日
中間監査会	11月11日

#### (4) 正副会長会 業務の打ち合わせ等、適宜開催

#### (5) 支部情報交換会 9月16日、3月3日

## 2 視覚障害者情報提供施設事業

### (1) 点字図書館等事業

県から指定管理を受託し、点字図書館を運営した。

#### ① 点字図書館事業

##### ア 図書利用状況

#### (ア) 利用者登録数

2,526人、令和3年度より9人増となった。

#### (イ) 利用実数

○点字図書 (延) 1,169人、(実) 105人、1,212タイトル (2,382冊)

令和3年度との増減 (延) 31人減、(実) 13人減、44タイトル減 (201冊減)

○録音図書 (延) 12,553人、(実) 945人、17,098タイトル (18,314冊)

令和3年度との増減 (延) 914人減、(実) 107人減、2,186タイトル減 (2,342冊減)

※上記のうち、他図書館貸出数

点字図書 (延) 220 館 226 タイトル (728 冊)

録音図書 (延) 4,831 館 6,124 タイトル (6,286 巻)

○点字データアップ・ダウン利用状況

アップタイトル数 72 タイトル、アップ巻数 223 巻

ダウンタイトル数4,937 タイトル、ダウン延べ利用者数 7,163 人

○録音(デジ)データアップ・ダウン利用状況

アップタイトル数 66 タイトル、アップ時間数 414 時間 15 分

ダウンタイトル数21,291 タイトル、ダウン延べ利用者数 99,449 人

## イ 図書の状況

(7) 所蔵数

令和5年3月31日現在

点字図書 15,268 タイトル、42,964 冊

録音図書 15,212 タイトル、60,012 巻

点字雑誌 528 冊

録音雑誌 2,786 巻

参考図書(普通文字) 751 タイトル、895 冊

拡大図書 239 タイトル、449 冊

点字・録音図書用原本(完了済みのもの) 4,252 冊

※ 点字図書に拡大点字図書8タイトル8冊を含む。

(1) 図書収集、製作状況

○ 点字図書

厚生労働省委託図書 57 タイトル (115 冊)

寄贈図書 6 タイトル (11 冊)

自館製作図書 62 タイトル (223 冊)

購入図書 4 タイトル (4 冊)

小計 129 タイトル (353 冊)

点字雑誌 16 タイトル (184 冊)

計 145 タイトル (537 冊)

○ 録音図書

厚生労働省委託図書 63 タイトル (63 巻)

寄贈図書 3 タイトル (3 巻)

自館製作図書 37 タイトル (37 巻)

購入図書 0 タイトル (0 巻)

小計 103 タイトル (103 巻)

録音雑誌 6 タイトル (72 巻)

計 109 タイトル (175 巻)

## ウ 指導・相談の状況

### (7) 読書相談 1, 431件

点字・録音・拡大図書等に関する相談及び辞書引きサービスやコンピュータによる全国点字図書館、公共図書館等の蔵書検索を行った。

### (4) その他の相談 198件

ボランティア等の相談や点字指導等の相談があった。

### (ウ) 生活等相談 1, 620件

医療関係からの相談はリハビリテーション病院からの相談が目立つ年だった。医療や介護の現場が捉えるリハビリテーションと、視覚リハビリテーションの違いを知った機関からのヘルプではあったものの、現場での戸惑いの大きさを強く感じる事例であった。協会への電話等で受けた相談については、初めて白杖を持つ方からのお尋ねが多かったように感じている。白杖を持つなら少し手ほどきを受けたほうが良いとどこかで聞かれることが増えているのかもしれない。その他、無人駅などのインフラ整備や周囲の視覚障害理解について、疑問や不安を話される方もあった。また、継続で相談を受けている方もあり、中高年世代で視覚に障害を負われた方々の不安や気持ちの整理については、時間をかけて寄り添う必要性を強く感じた。

## エ 施設利用状況

### (7) 利用者数

対面朗読室・聴読室	20人
閲覧	809人
ボランティア研修室等	569人
録音室	711人
見学・その他	1,980人
計	4,089人

### (4) 施設見学(23名)

兵庫県議会議員	5名
大学生、大学講師	3名
福祉団体、点字図書館	7名
福祉専門学校	2名
小学生と保護者(研究課題)	6名

## オ ボランティアの状況

### (7) ボランティア登録数(122名(重複あり))

点訳ボランティア	55名
----------	-----

音訳ボランティア	45名
デイジー図書製作ボランティア	7名
対面朗読ボランティア	7名
作業ボランティア	8名

(イ) 登録団体

点訳	1団体
音訳	2団体

(ウ) ボランティアの活動概要

◇点訳研修会

のじぎく全体会	不定期			(30名)
のじぎくA	月1回	第4木曜日	午後	(6名)
のじぎくB	月2回	第2・3火曜日	午後	(2名)
のじぎくC	月1回	第2水曜日	午後	(5名)
のじぎくD	月1回	第1火曜日	午後	(11名)

◇音訳研修会

声のあげぼの	月1回	第1木曜日		(9名)
グループそよかぜ	月1回	第1木曜日		(16名)

(エ) 表彰関係

高見かず子	〔点訳〕	(社福)	日本盲人社会福祉施設協議会	奉仕者表彰
沖 幸代	〔音訳〕	(社福)	日本盲人社会福祉施設協議会	奉仕者表彰

カ 点字ニュース即時提供システム事業

日本視覚障害者団体連合の実施している標記事業の窓口になり、速やかな情報提供に貢献している。

(ア) 登録者の状況

個人登録19人、公共機関等1件 合計20名

(イ) 利用状況

- ・ 点字JBニュース送付者 0名
- ・ メール版送信数 4,639件

キ その他事業

(ア) 点字図書館だより発行状況(年6回)

点字版	806部
録音版	1,003部
普通文字版	626部
計	2,435部

(イ) オーディオブックの充実強化

専門書オーディオブック製作を行い、今年度は国立国会図書館に128タイトルのワードデータを提供した。この中には、兵庫県立神戸甲北高等学校において、選択授業の科目「ボランティア実践」において生徒28名の協力のもと製作した3タイトルも含まれている。また、大学生から公務員試験過去問の作成希望があり作成しており、活用例として作成したオーディオブックを活用して日商PC検定試験 文書作成 3級を合格された方がいる。

次に、丸善雄松堂ebookは、450タイトル購入したので累計1,530タイトルのオーディオブックを聴くことができるようになった。

(ウ) 生活点字の普及啓発

講座の開催においては、コロナ感染症対策のためZOOMによるオンライン指導と対面指導の両方を活用した。内容はL点字・その他の様々な教材を用いて、楽しみながら身の回りの簡単な点字を読み書きできるようになることを行った。また、L点字から次の段階の点字に進んだ方は継続により成長していることを実感されている。

併せて、兵庫県立神戸甲北高等学校において「ボランティア実践」の授業として点字普及活動を5回開催した。

開催地区・講座回数・参加者延べ人数は次の通り。

・ 生活点字普及講座	——	香美町（オンライン）	20回	延べ20人
		県福祉センター（対面）	6回	延べ 6人
		神戸甲北高校（対面）	5回	延べ140人
		参加者		延べ166人

(イ) ICT指導者養成研修事業

昨年度に引き続き『ICTサポートボランティア養成研修』というタイトルで晴眼者のサポーター養成を行った。前年度の反省点として、1回の講習時間が長く、回数も多かったことで受講を躊躇する声もあったことから、今回は1回の講習は2時間、全6回というタイトなスケジュールで計画。また、平日は参加が難しいという声も聞こえていたことから、例年通りの平日（月曜日）と、初めての土曜日開催の2パターンで行った。

神戸以外の会場を、ちょうど開催計画を立てている際、但馬で行われた同行援護従業者養成研修が盛況だったことから、視覚障害者支援に興味を持って下さる方々が多くおられるのでは、との期待を込め豊岡と決めた。

開催スタイルは、昨年度は神戸と姫路の同時サテライトの2会場としたが、電波状況の不安定さや、サテライト会場が置いてけぼりになる傾向が否めなかったことから、同時開催の困難さを感じていたため、今回は平日開催を神戸会場（福祉センター貸し会議室）、土曜開催に豊岡会場（豊岡市・豊岡市民プラザ）のスタイルで行うこととした。平日の神戸会場を主として、講師が講義と質疑応答、そしてその講義を録画し、土曜日の豊岡会場を副として、神戸会場の録画再生と職員の補足説明+質疑応答を進めることとした。

いずれの会場にも社協職員や同行援護従業者、朗読ボランティアとして活動されている方々からの申し込みがあった。特に豊岡会場では但馬の当事者にも声をかけ、研修を覗くだけでも、操作に自信のないところを尋ねるチャンスとしてでも、活用してくれるよう案内をしたところ、全ての回に必ずどなたかはお参加くださり、研修中に補足アドバイスや頂戴したり、実践トレーニングの際に加わっていただくなど、受講生の刺激にもなる良い機会にすることができたと感じている。

前年度修了者向けに行いたかったフォローアップ研修を開催することができなかったため、次年度の早い時期に、今回の修了者も参加対象とした研修を計画したいと考えている。

- ・ 開催日時  
神戸 1月10・16・30日、2月13・27日、3月13日 　　いずれも月曜日  
豊岡 1月14・21日、2月4・18日、3月4・13日 　　いずれも土曜日  
時間 13時30分から15時30分
- ・ 会場  
神戸 兵庫県福祉センター201会議室  
豊岡 豊岡市民プラザ
- ・ 受講人数  
神戸 4名  
豊岡 12名
- ・ 講師：岸本  
補助：小林  
ボランティア：前田（前年度修了者） 豊岡のみ

#### (オ) 出前講座の実施

社会福祉協議会や学校等の要請により、職員が講師となった出前講座を実施した。

##### ◇ 明石市社協 福祉学習研修（明石市民会館・第1会議室）

日時：8月3日（水） 13：30 ～ 16：00

対象：明石市内公立学校で福祉学習に携わる教員22名

講師：小林

##### ◇ 兵庫県立明石城西高等学校 ボランティア学習

日時：11月1日（火） 6限目（14：15～15：05）

対象：ボランティア学習で視覚障害者のガイドヘルプを選択した生徒8名

講師：小林

##### ◇ 兵庫県立日南高等学校 福祉科 「特色ある教育課程推進事業」

日時：12月19日（月） 13：30 ～16：30

対象：福祉科1年生30名

講師：小林、長浜

- ◇ 稲美町社会福祉協議会 福祉学習研修会 (稲美町社協)  
日 時 : 3月2日 (木)  
対 象 : 稲美町内公立学校で福祉学習に携わる教員11名  
講 師 : 小林
- ◇ 兵庫県立日高高等学校 看護科 「特色ある教育課程推進事業」  
日 時 : 3月16日 (木) 13:30 ~ 15:30  
対 象 : 看護科1年生36名  
講 師 : 小林
- ◇ 養父市社会福祉協議会 福祉学習スキルアップ講座  
日 時 : 3月29日 (水) 13:00 ~ 16:00  
対 象 : 養父市社協開催の福祉学習ボランティア研修修了者16名  
講 師 : 小林

## ② 身体障害者福祉事業

県からの委託事業を核に下記のとおり実施した。

### ア 視覚障害者情報提供促進事業

#### ・ ICT相談

フロッグワークス代表岸本将志氏を講師に、パソコン等IT機器類の操作指導やトラブル対処法に対応。今年度もコロナによる緊急事態宣言発令などを受け、原則電話対応のみで火曜日と水曜日の午後を相談日として行った。年度後半になるにつれ、対面相談にも応じることが増えてきたが、基本的には電話相談継続中。少し新規利用者があったようだが、まだまだリピーターの割合は高い。延338名。

### イ 視覚障害女性家庭生活訓練事業

これまで音声ガイド付きの家電調理器は1メーカーのみで選択肢がなかったのだが、このたび炊飯器について他社製品があることがわかり、調理体験訓練として炊飯器比較会を行ったほか、地域社協からつながった突発的病により視力を失った高齢女性に対し、退院後自宅での生活に必要な指導訓練を行った。

#### ・ 開催日時

- |          |           |     |                  |     |
|----------|-----------|-----|------------------|-----|
| 2月9日 (木) | 兵庫県福祉センター | 講習会 | ハンドタオルでうさぎづくり    | 38名 |
|          |           |     | ハートポップリづくりに挑戦しよう | 38名 |
| 3月2日 (金) | 兵庫県福祉センター | 講習会 | 新しい音声家電を体験しよう    | 6名  |

### ウ 視覚障害青年社会生活教室

社協からの相談でつながった、原因不明で視力を失った肢体不自由の方のサポートを、今年度も継続的に社協、役場、当事者の職場、就労支援団体とチームを組んで取り組んだ。

職場のイントラネット（視覚障害者向けではない）を活用し、与えられた役割を自立して完結することを目標にすえ、当事者の職場へ伺い訓練を重ねる。延24回。

## エ 中途視覚障害者各種指導事業

### ◎ 触読等指導（開催場所 神戸市 県福祉センター）

中途視覚障害者2名に対し、4月～9月（計12回）と4月～12月（計16回）の講座を、点字技能師・点字指導員である仁枝玲子職員が、L点字を使用した触読の指導をはじめ、各種視覚障害者用器具の紹介、制度の説明などを行った。

### ◎ 生活・歩行訓練

日本ライトハウス養成部歩行訓練士3名を講師に、4月から3月、丹波市、尼崎市、宝塚市、姫路市、明石市、加西市、稲美町の希望者12名に延べ69回実施した。

視覚障害者歩行指導員の武内氏を講師に、4月から3月、豊岡市、香美町の希望者3名に延べ27回実施した。

当協会歩行訓練士玉利職員を講師に、4月から3月、尼崎市、西宮市、篠山市、小野市、姫路市、福崎町、太子町、垂水区の申込者13名に70回の訪問訓練を実施した他、センター来所者に白杖指導を行った。歩行訓練でスタートした訓練が後半にはICT指導になることも少なくない。

## オ 点訳奉仕員養成事業

### ◎ 中級講座 開催場所 県福祉センター

4月～3月の間、全11回、各回13名を対象に、仁枝玲子職員が指導した。

## カ 朗読奉仕員養成事業 開催場所 県福祉センター

### ◎ 朗読奉仕員研修会

4月～3月 全15回 延217名の参加を得た。

### ◎ パソコン録音講習会

5月～7月 計6回 21名の参加を得た。

## キ 視覚障害者社会参加支援事業

- しあわせの村 障害者スポーツイベント「パラスポーツ王国」 11月3日
- 但馬眼科院内サロン 用具展示と情報交換 7月23日・11月23日・3月19日
- 用具展（県福祉センター） 2月11日

## ク 同行援護養成研修

一般課程では、同行援護の制度と従業者の業務を理解し、基本的な移動の支援と技術を習得し、応用課程では、視覚障害者に対する理解を深め、講義・実技を通し必要な知識と技術を高めることを目的とする研修を実施した。

今年度は初の試みとして、高校から依頼を受け研修を実施した。

講師は同行援護支援センターサービス提供責任者の長浜が担当した。講師のスーパーバイザーとして、歩行訓練士（視覚障害生活訓練等指導者）武内清氏に研修のサポートをお願いした。

なお、尼崎会場での実施を予定していたが、最少催行人数に達しなかったため中止となった。

#### 【一般課程】

##### ・ 豊岡会場

開催場所：豊岡市民プラザ 市民活動室C

〒668-0031 豊岡市大手町4-5 アイティ7F

開催日：令和4年10月29日(土)・30日(日)・11月5日(土)・6日(日)（計4日間）

定員20名・申込者18名・受講決定者18名・修了者16名

※受講決定者のうち2名については、演習の様子から、現在の身体状況では視覚障害者を安全に誘導することは困難と判断し、演習カリキュラムについても全て修了することができなかったことから、修了証明書の発行を見送ることとした。

##### ・ 日高高校会場

開催場所：兵庫県立日高高等学校

〒669-5395 豊岡市日高町岩中1番地

開催日：令和5年2月6日(月)・7日(火)・13日(月)・14日(火)（計4日間）

定員30名・申込者20名・受講決定者20名・修了者20名

※当該高校の福祉科3年生並びに兵庫県下在住の一般の方を受講対象とした地域公開講座として実施。

修了者20名のうち、19名は福祉科3年生、1名は一般からの参加であった。

#### (2) 点字制作施設事業

令和4年度は、6月に参院選があり点字氏名掲示や点字公報等を作成。その他、例年どおり各市の広報や議会報などの点字・音声作成等を行った。

#### 3 同行援護支援事業

令和5（2023）年3月末時点では、利用者は203名登録があり、内訳は県下36市町195名、県外1府4県8名、登録同行援護従事者については、県下25市町108名、県外1府2名であった。

実際に利用があったのは、県下29市町県外1府1県111名であった。

#### 4 認定こども園事業

令和4年4月1日に開園で、当初は105名定員のうち87名の受入児童に対して職員数45人（保育士33人、看護師3人、栄養士・調理員5人、事務員等4人）でスタートしました。令和4年12月28日に明石市による初めての施設実地指導監査を受けました。開園後9か月と施設運営について様々な指摘や助言をいただきましたので、事故対応マニュアルの作成、アレルギー対応マニュアルの見直し等、順次改善を行ってきております。中でも給食提供にかかる事故等が多く（16件）発生したことから、令和5年4月から給食業務を業者委託し、安全安心な給食提供を行っています。引き続き全職員が協力してさらなる改善に取り組み、児童が安心して健やかに成長できる保育環境が提供できるよう努力していきます。

(1) 開園 令和4年4月1日

(2) 区分 幼保連携型認定こども園

(3) 住所 明石市魚住町西岡天王後1643番等8筆 2,320.97㎡（登記簿）

(4) 建物 鉄骨造 2階建 延床面積 1,394.05㎡（登記簿） 園庭955.55㎡

(5) 事業実施の目的

本協会として視覚障害者を始めとする障害者の福祉向上をめざすにあたり、乳幼児及び子育て中の親に対するサポートの重要性を痛感し、保育所・こども園の設置等を進めている明石市の施策に呼応して、認定こども園事業を実施することとした。

(6) 運営の特色

ア 0～2歳児を多数受け入れ、乳児期から就学前まで継続してこどもの成長を見守るとともに保護者へのきめこまかな支援を行う。

イ 看護師を採用し、全園児の健康管理に努めるとともに、ケガや急な体調の変化に対応できる病児保育室など安静にできる環境を整え、児童の迎えまで保護者が安心できる保育を提供する。

ウ 一時預り保育、病児保育（体調不良型）、子育て相談、園庭開放などを実施し、無園児を減らし、発達障害や児童虐待の発見に努め、地域の親子を支える拠点となる。

エ 防災型地域交流スペースを活用し、近隣の高齢者、障害者、園児との交流を図るとともに、災害時には子育て中の親子や集団になじみにくい児童のいる家族の避難所としての役割りを担っていく。

(7) 認可定員 3歳未満児 42人（0歳10人、1歳16人、2歳16人）

3歳以上児 63人（3歳21人、4歳21人、5歳21人） 計105人

(8) 入園児童数 3歳未満児 51人（0歳13人、1歳15人、2歳23人）

【R5.4.1現在】 3歳以上児 71人（3歳26人、4歳25人、5歳20人） 計122人

（定員の116.2%）

(9) 特別保育事業 一時預かり保育（令和4年度利用児童63人、延べ555回）、障害児等に係る保育（令和4年度4名）を実施しています。また、病児病後児保育については、今後、明石市等と引き続き調整を行い、実施を検討していきます。

(10) 職員配置状況 必要保育士数 15人

職 種	令和4年4月1日現在			令和5年4月1日現在		
	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計
園 長	1		1	1		1
副園長	1		1	1		1
主任保育士	2		2	2		2
保育士	24	6	30	25	10	35
看護師	3		3	3		3
事務員等		3	3		3	3
栄養士・調理員	3	2	5			0
合 計	34	11	45	32	13	45

※①常勤保育士に短時間勤務正規含む ※②常勤保育士1名育休、看護師1名病休中

## 第2 公益事業

### 1 日常生活用具等斡旋販売事業

今年度は値上げが相次ぎ、白杖や音声腕時計など、基準額内でおさまる用具が選べなくなるなどの事態が生じてしまった。半導体不足の製品製造遅れなどは随分と解消されたものの、既存製品の製造段階での不具合などから納品遅れが生じることがあった。

前年度に比べ取引件数が減少しており、価格が上がり基準額が追いついてこない現状に、申請のタイミングを検討しようかと思うという声も相談時に聞かれたことから、購入には慎重になっている様子がうかがえる。

納品にかかる送料については据え置きで新年度をスタートさせるが、入荷時の送料は今年度中に全て上がってしまった。用具価格にどのように乗せていくか、次年度早い段階で検討と見直しが必要だと考えている。

### 2 文化教養交流等事業

会員・ボランティアの参加を得て次の事業を実施した。

(1) 文化教養事業

- ・ 囲碁・将棋・オセロ大会 7月22日 県福祉センター 参加総数69名
- ・ 点字競技会 9月2日 県福祉センター 参加総数17名
- ・ 芸能大会 10月14日 東灘うはらホール 参加総数129名
- ・ 福祉講演会・防災研修会 9月16日 子午線ホール(明石) 参加総数 208名
- ・ ふれあいコンサート 10月28日 子午線ホール(明石) 参加 68名 付添等 83名
- ・ 兵庫県視覚障害者福祉まつり 12月2日 県福祉センター 参加116名 付添等173名

(2) 交流等事業

ア 日本視覚障害者団体連合

- ・ 第75回全国視覚障害者福祉大会名古屋大会 5月31日、6月1日 参加1名
- ・ 全国団体長会議 5月31日、10月7日、2月15日 ZOOM会議 参加各1名
- ・ 第1回近畿ブロック委員会・あはき研修会 6月17日 滋賀県 参加3名
- ・ 第2回近畿ブロック委員会 11月18日 和歌山県 ZOOM会議 参加2名
- ・ 近畿ブロック団体長会議 2月22日 大阪市 参加1名

イ 情報発信

- ・ 県視協情報発行 一年4回一般・特別会員に配布(デジ版・CD版)
- ・ ホームページ配信 毎月1日更新

ウ 各地区活動助成事業

14地区において独自の支部活動が行われ、延505名の参加があった。

エ 部活動

(ア) 青年部

- ・ 第1回 近畿ブロック協議会青年部委員会 6月19日 和歌山県 参加2名
- ・ 第2回近畿ブロック協議会青年部委員会・青年交流研修会  
3月4日・5日 堺市 参加各2名
- ・ 全国視覚青年大会(福岡県大会) 9月18日 ZOOM参加2名

(イ) 女性部

- ・ 定期総会 4月22日 県福祉センター 参加19名
- ・ 支部長会 6月23日 県福祉センター 参加12名
- 9月8日 県福祉センター 参加10名
- 12月8日 県福祉センター 参加12名
- ・ 研修会 11月11日 新開地 喜楽館 参加44名
- ・ 役員会及び監査会 3月2日 県福祉センター 参加6名
- ・ 全国視覚障害女性研修大会(福島大会) 8月31日 ZOOM参加1名
- ・ 近畿ブロック女性連絡会議(大阪市) 1月27日 ZOOM参加1名

(I) 音楽部

- ・ 第 59回 全国邦楽演奏会 4月29日 兵庫県立芸術文化センター 約400名参加
- ・ 第 60回 日本視覚障害者団体連合音楽家協議会福祉大会  
4月30日 新阪急ホテル 参加16名
- ・ 第 46回 箏曲定期演奏会 2月26日 垂水レバンテホール 約150名参加

(オ) スポーツ部

【役員会等】

- ・ 役員会 4月20日、12月12日、3月6日
- ・ 近畿ブロックスポーツ部委員会 7月31日、2月26日

【サウンドテーブルテニス部】

- ・ 第 61 回兵庫県視覚障害者S T T大会兼第 16 回身体障害者のじぎく大会  
5月27日 県立障害者スポーツ交流館  
参加選手 38 名
- ・ 第 10 回のじぎく杯S T T大会 9月4日 県立障害者スポーツ交流館  
参加選手 36 名
- ・ 第 59 回近畿視覚障害者卓球大会 10月9日 奈良県心身障害者福祉センター  
参加選手 5 名
- ・ 第 22 回全国障害者スポーツ大会栃木大会サウンドテーブルテニス部門 栃木県  
参加選手 1 名

【フロアバレーボール部】

- ・ 第 43 回近畿視覚障害者フロアバレーボール大会 舞洲障がい者スポーツセンター  
参加選手 13 名

【グラウンドソフトボール部】

- ・ 第 59 回近畿視覚障害者グラウンドソフトボール大会兼第 22 回全国障害者スポーツ大会  
グラウンドソフトボール競技近畿地区予選会 大阪府大泉緑地スポーツ広場  
参加選手等 17 名

### 第3 社会福祉充実計画

認定こども園の開設等、社会福祉充実計画（平成30年度～令和4年度）に基づいて事業を実施してきた結果、令和4年3月31日現在の社会福祉充実残額がマイナスとなったことから、社会福祉充実計画を終了した。